
同じ星

眠心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

同じ星

【Nコード】

N7133C

【作者名】

眠心

【あらすじ】

タイトルと同じ詩の他に2作品収録しています。心の一服程度に読んで頂いたら幸いです。

「同じ星」

小さな欠片を拾い集めて僕は育ってゆく

どんなに大きな破片を拾っても
それはすぐ砕け散ってゆく

少しずつでいいんだ
そう焦らなくていい
一歩ずつ前へ

言いたい事はゆっくりと考えて
あなたの言葉でいいから
迷わないで

もう答えはすぐそこにあるから

どんなに離れていたって僕と君は同じ星にいるよ
木々や花もあなたを見てる淋しくなんかないさ

大きな夢を抱いて僕は育ってゆく

どんなに小さな希望もそれは素晴らしい事

少しずつでいいんだ
そう焦らなくていい
一歩ずつ前へ

叶えたい事はゆっくりと進めて
あなたのスピードでいいから
戻らないで
もう答えはすぐそこにあるから

どんなに離れていたって僕と君は同じ星にいるよ
太陽も月もあなたを見てる悲しくなんかないさ

「季節色」

秋が来て君の言葉に色が帯びる

僕の心は冬が来て色を失う

チグハグな季節を通り過ぎたら君はまた大人に近づいた

春が来て木々に色が芽吹く

夏が来て僕の心に色が宿る

一年という時の流れに何色の色がついたろう

空に架かった七色の虹を僕らは渡る

きっとそこには季節なんていう色はないだろう

ただ闇雲に手探りで色を感じ

耳で色を聞き分け

ほのかに香る色に酔いしれるだけなんだ

無色な僕らはずっと色と巡り合うのを待っている

「チクタク」

チクタク時計が進んでく
僕の時間が減っていく

公園で遊ぼうか
友達に会いに行こうか

迷ってる間に時計はチクタク進んでく

思い出達にさようなら
お別れ言ったその後
過ぎた時間を悔やんでみても
結局チクタク進んでく

前に進んだ僕の足跡
追い越されないよう歩いてく

まるで影踏み鬼ごっこ
僕の時間を返してよ

叫んでみても結局チクタク進んでく

(後書き)

詩ブログみたいな物をやっています。良かったらお越しください。
<http://tsiroto.exblog.jp/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7133c/>

同じ星

2011年1月27日06時18分発行